

配付先) 岐阜県政記者クラブ、
美濃加茂市政記者クラブ、可児記者クラブ
(解禁指定) なし

令和3年8月20日
国土交通省中部地方整備局
木曾川水系ダム統合管理事務所
新丸山ダム工事事務所

丸山ダムの防災操作 木曾川の水位を約60cm低下

= 前線停滞に伴う8/12(木)からの降雨で洪水防御の効果を発揮 =

- 丸山ダム流域では、降り始めから8/15(日)14時までの累計の降雨量が380mmに達しました。
- 丸山ダムでは、8/14(土)夜のはじめから8/15(日)未明にかけて、流れ込む洪水の量が特に増加したため、洪水の一部を貯め込む防災操作(洪水調節)を実施しました。
- 丸山ダムにおいては、関西電力(株)の協力を得て今回洪水に備え事前放流を実施し、約760万m³※の空き容量を確保しました。

※既に確保していた空き容量約390万m³、事前放流により新たに確保した空き容量約370万m³

今回の丸山ダム防災操作(洪水調節)の概要

- ・ 貯め込んだ洪水の量は最大約450万m³ (25mプール約7,500杯)
- ・ 八百津町八百津地区における木曾川の水位を約60cm低下したものと推定
- ・ 丸山ダムに流れ込んだ洪水の量は、最大で1秒あたり約5,460m³ (25mプール約9杯) であり、1956年の管理開始以降4番目に多い水量
- ・ 丸山ダムの防災操作の実施はおよそ22年ぶり (前回: 1999年(H11)6月)

【問合せ先】

【丸山ダムに関すること】

木曾川水系ダム統合管理事務所

管理課長 前田隆成

058(255)2562

【新丸山ダムに関すること】

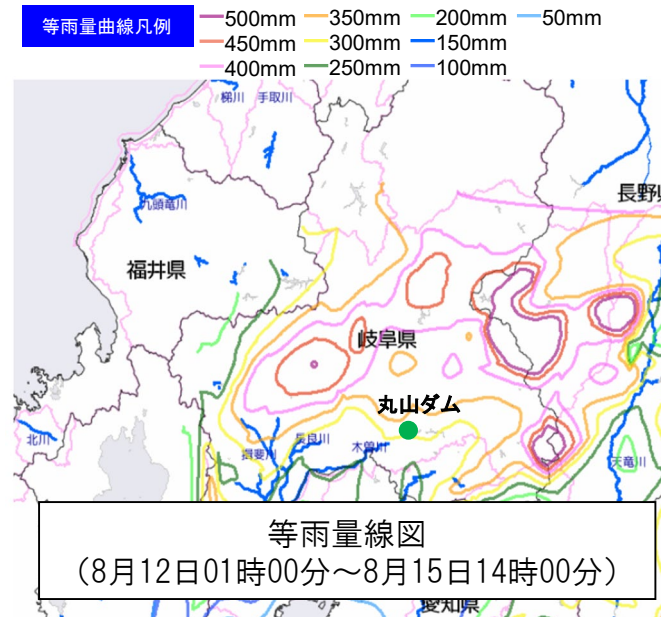
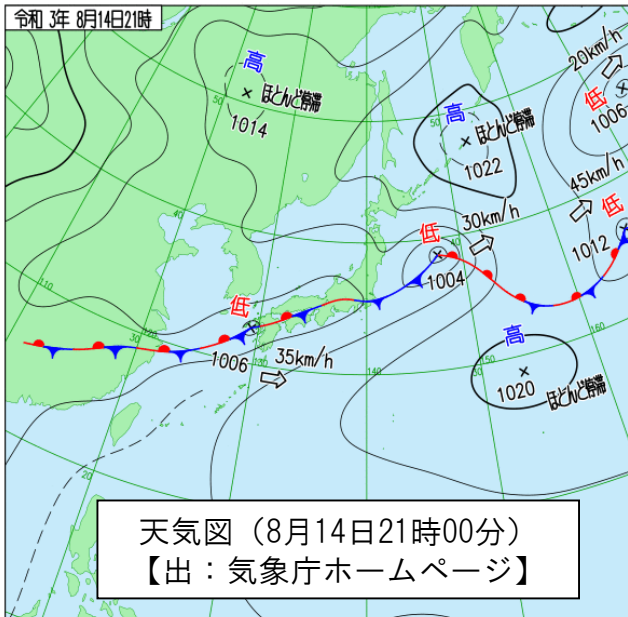
新丸山ダム工事事務所

調査課長 馬場浩彰

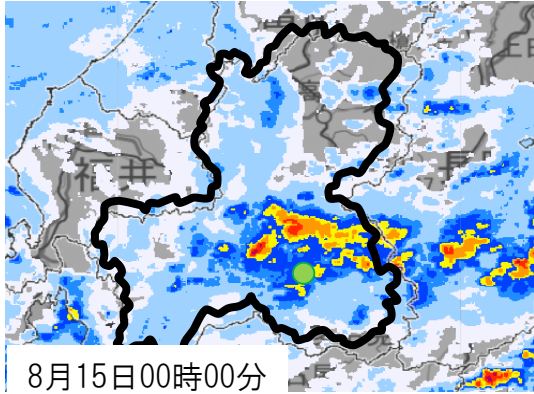
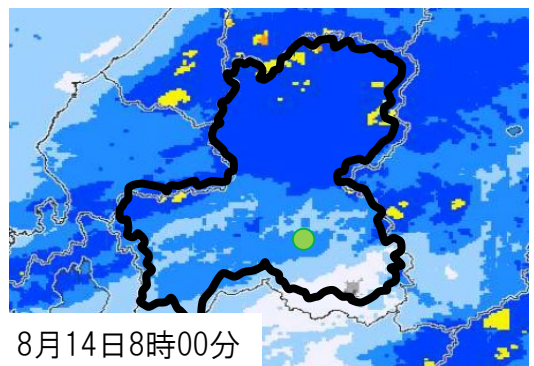
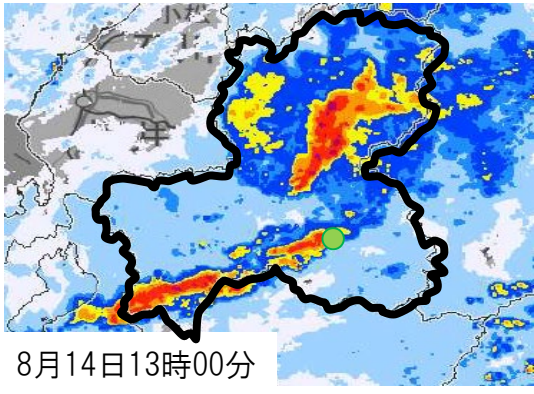
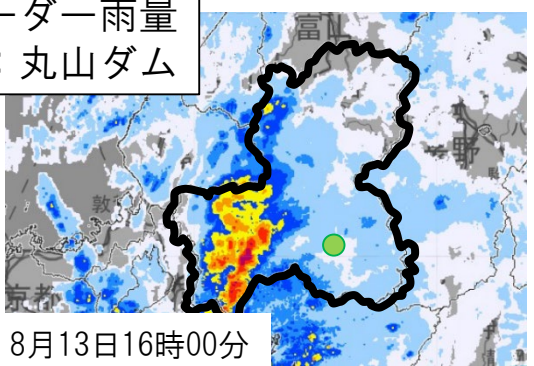
0574(43)4173

◆ 気象状況

- 日本付近に停滞した前線の影響で、8月13日(金)から15日(日)にかけて南から暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込み、東海地方の各所で記録的な雨量が観測されました。
- 丸山ダムの流域においては、8月12日の降り始めから時間10mmを超える雨量が断続的に続き、累計では15日14時点までに380mmに達する降雨となりました。



レーダー雨量
● : 丸山ダム



◆丸山ダムの効果

(注) 数値はすべて速報値です。最終的な整理と異なる場合があります。

木曽川の丸山ダムによる洪水の貯留により

● 八百津町八百津地区地点の水位を約0.6m低下

新丸山ダムが完成した場合には、さらに水位を約0.1m低下

● 愛知県犬山市犬山地点の水位を約0.2m低下

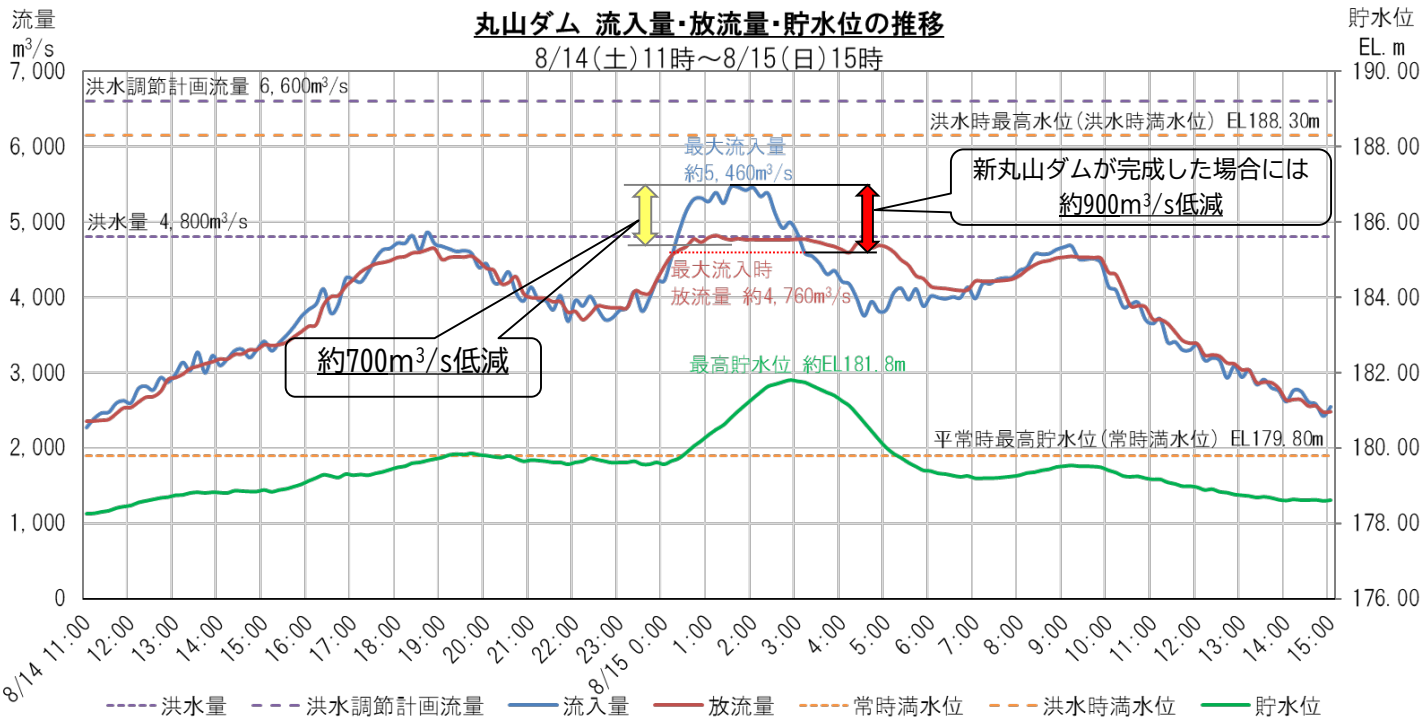
新丸山ダムが完成した場合には、さらに水位を約0.1m低下

- 丸山ダムに流れ込んだ洪水の量は、最大で毎秒約5,460m³(25mプール約9杯相当)となりました。この量は、1956年(S31)の管理開始以降4番目に多い量です。
- 丸山ダムでは、洪水の一部を貯め込む防災操作(洪水調節)を8月14日(土)夜のはじめ頃に30分間、15日(日)未明に約3時間の2回実施し、この間に貯め込んだ水量は最大約450万m³(25mプール約7,500杯分)となりました。
- これにより、丸山ダムから流す量を最大約700m³/s減少させ、八百津町八百津地区(市街地付近)における木曽川の水位を0.6m余り低下、犬山市犬山地点の木曽川の水位を約0.2m余り低下させたものと推定されます。



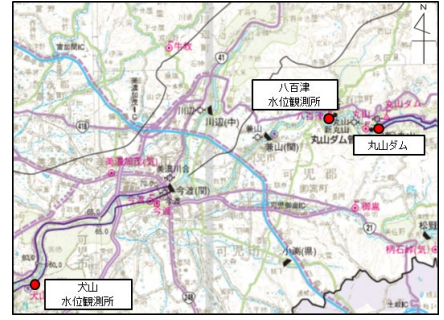
丸山ダム 流入量・放流量・貯水位の推移

8/14(土)11時~8/15(日)15時



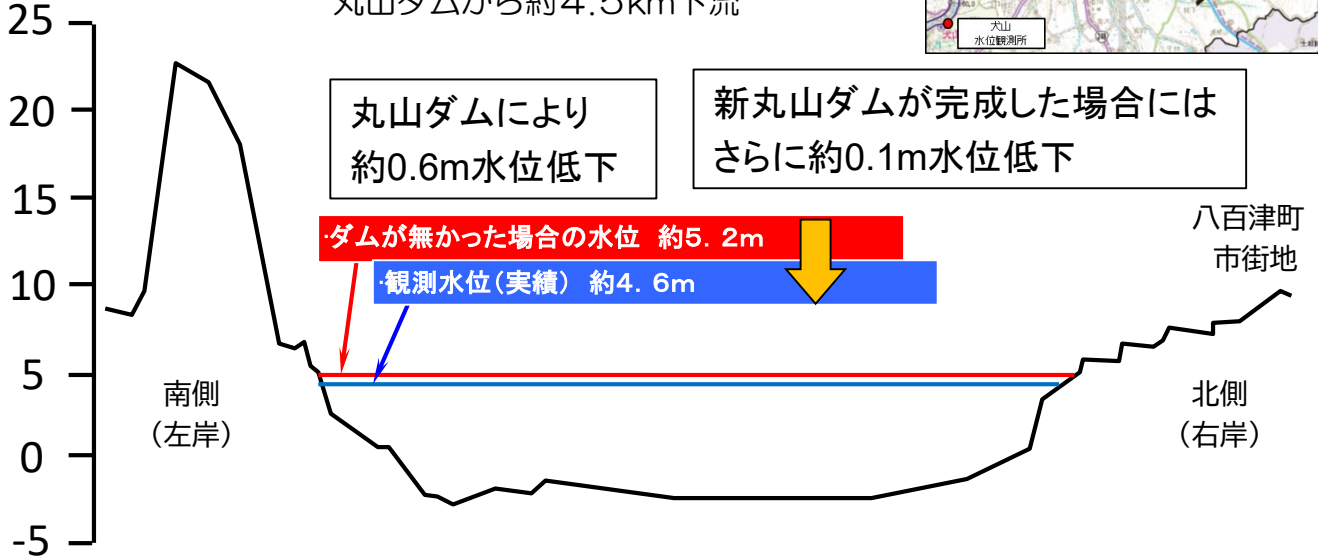
◆丸山ダムの効果

注) 数値はすべて速報値です。最終的な整理と異なる場合があります。

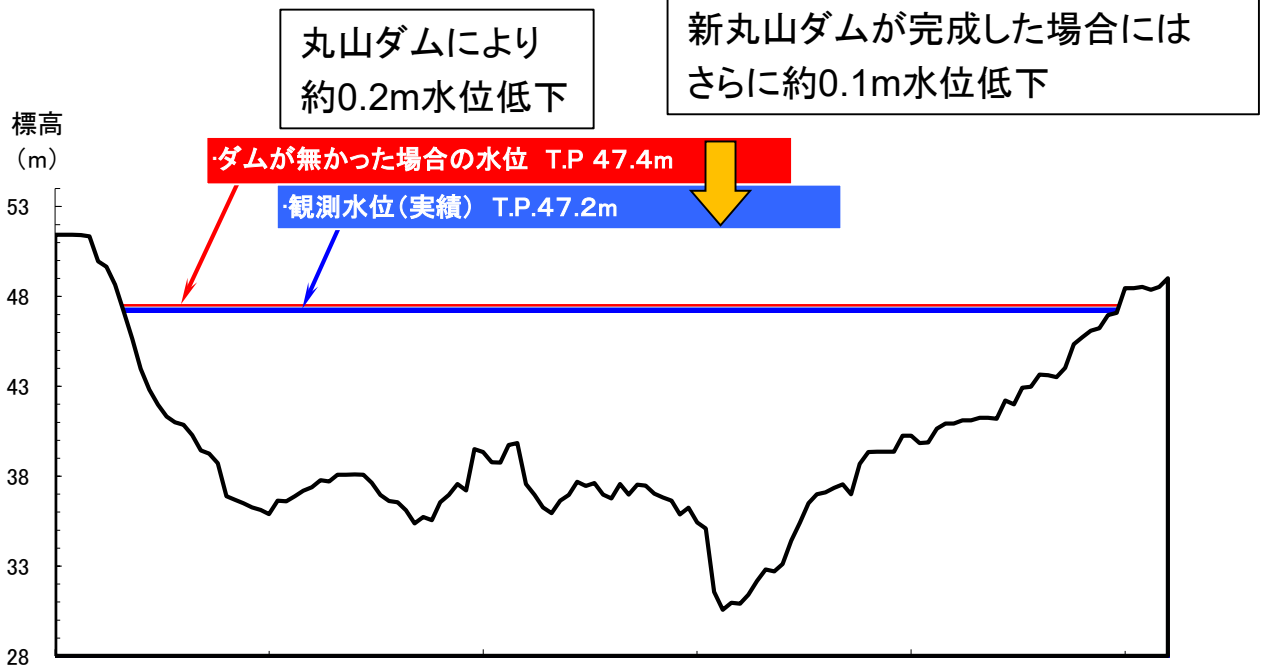


八百津観測所の
水位読み値(m)

八百津町八百津地区(岐阜県加茂郡)の水位低下効果
丸山ダムから約4.5km下流

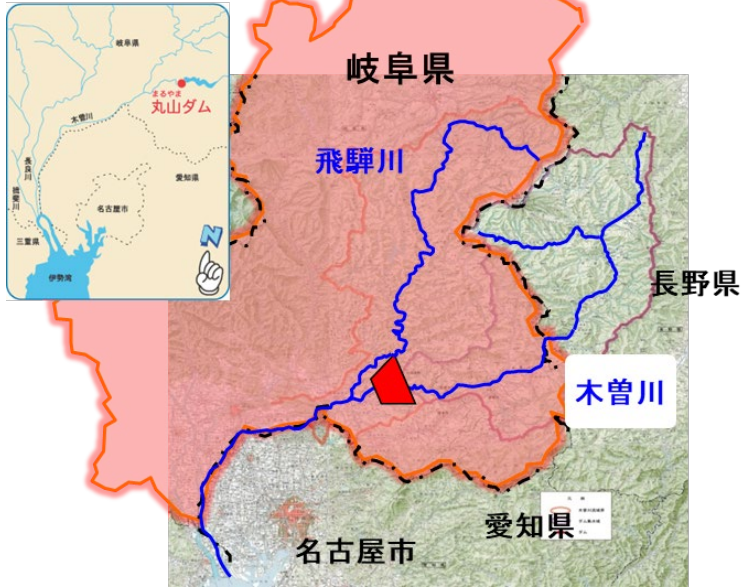


犬山市犬山(愛知県犬山市)の水位低下効果
丸山ダムから約30km下流



◆ (参考) 丸山ダムの概要

位置図



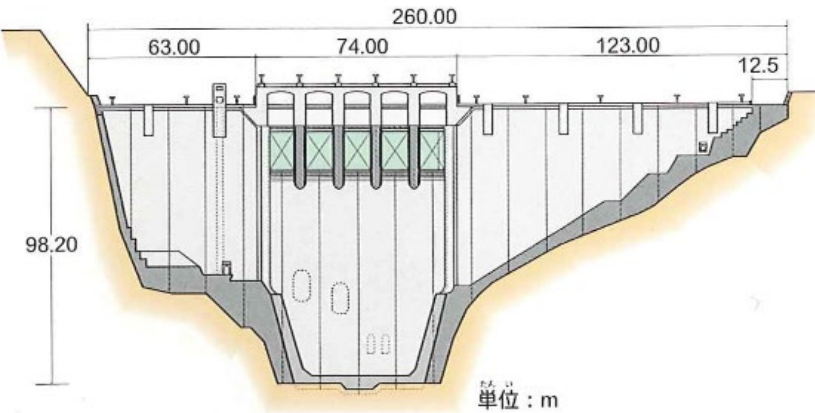
丸山ダムの地勢的な特徴

- 丸山ダムは、木曽川の河口から約90km上流に位置しています。
- 丸山ダムに流れ込む水は、上流域の面積約2,409km²から集まります（これは木曽川に水が流れ込む面積の約46%に相当します）。

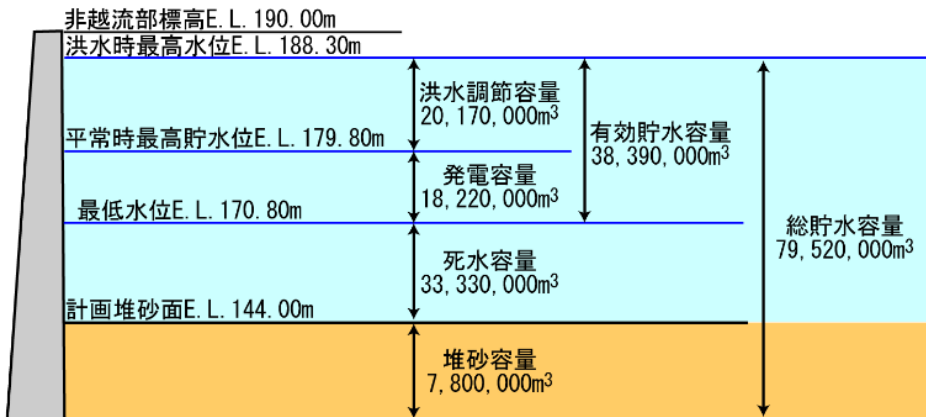
丸山ダムの構造的な特徴

- 丸山ダムの管理は1956年(S31)4月から開始しており、65年が経過しています。
- 丸山ダムの高さ98.2mは当時の国内最高で、佐久間ダムや黒部ダムへと続く100m級ダム建設の幕開となりました。
- 丸山ダムの洪水吐ゲートは堤頂部のローラーゲート5門(1門あたりの重量約100t)と大きく、その後のゲートの大型化の先駆となりました。
- 丸山ダムの目的は洪水調節と発電で、関西電力(株)による発電は、年間約26万世帯分の消費電力に相当します。

堤体下流面図



貯水池容量配分図



◆ (参考) 新丸山ダムの概要

新丸山ダム建設事業は、既設丸山ダムの堤体を嵩上げし、洪水調節機能の強化をすることにより、木曽川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守るとともに、流水の正常な機能の維持及び発電を行います。

○場所

木曽川水系木曽川
 右岸 岐阜県加茂郡八百津町
 左岸 岐阜県可児郡御嵩町

○目的

洪水調節(木曽川の洪水防御)
 流水の正常な機能の維持
 発電(関西電力(株)):最大210,500kw)

○諸元

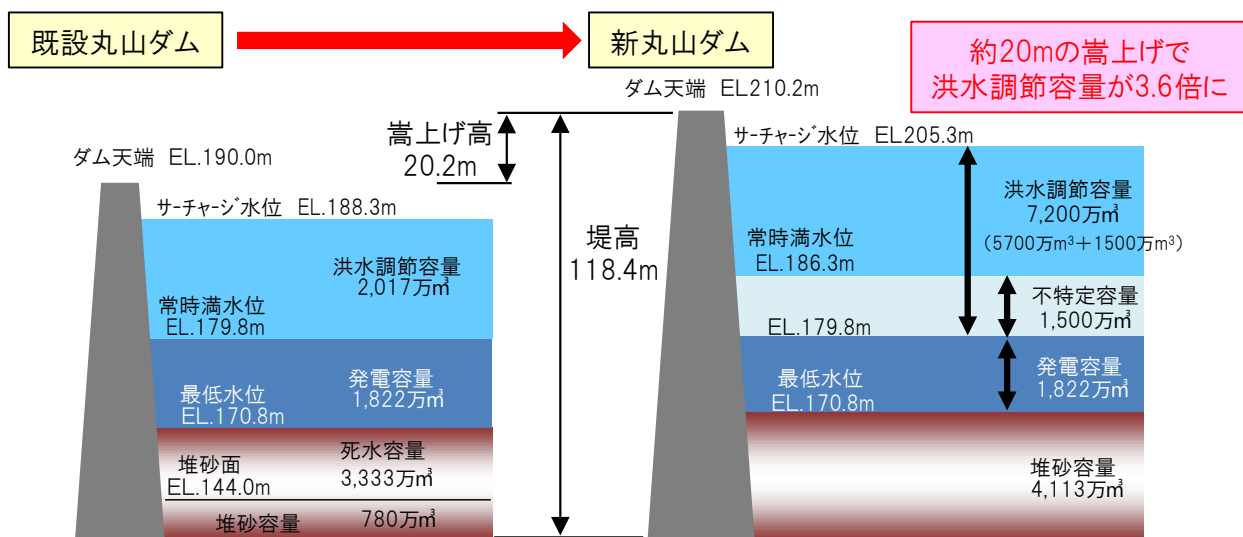
重力式コンクリートダム
 (高さ118.4m、総貯水容量131,350千m³)

現況 (R3.7撮影)

令和3年1月
 本体1期工事契約



貯水池容量配分図



完成イメージ

